

ひろば 大代

No. 4 6 0

平成 29 年 11 月号

大田市の人口	
(H29. 10. 31 現在)	
大田市	35, 590 人
内大代町	363 人
男	159 人
女	204 人

西臨寺山門完成!!

八反田 長谷保孝



西臨寺の新たな山門がこのほど完成いたしました。

数年前から山門の老朽化による傾き

やゆがみが目立ち、「ゆくゆくは何と
かしなければ」と、総代会でもしばし
ば議題に上がってはいましたが、今す
ぐにどうのこうのというほどではあり
ませんでした。

ところが、本年三月の季節外れの積
雪による雪ずりで、瓦が道路に落ちて
いるのが見つかりました。通行される
人や車の安全を考えると、このままに
しておくわけにはいかないと結論か
ら、修繕を考えましたが、莫大な費用
がかかることがわかり、残念ではあり
ますが現在ある山門を解体して、新た
な山門を建立しようということに決ま
りました。

四月十三日には門徒や地元住民の皆
様約百人で「お別れの集い」を行い、
山門に別れを告げました。

四月下旬からは解体工事、そしてす
ぐに建設工事にかかり、七月三十一日
には棟上げをむかえることができ、住
職、総代、建築に携わった方々と本堂
でおつとめをしました。そしてこのほ
ど完成の運びとなりました。

山門の建立に際しまして、門信徒、
地域の皆様、近隣の町の皆様にご懇志

をお願いいたしましたところ、快くご
協力してくださいました。心よりお礼
申し上げます。おかげ様を持ちまして、
ご懇志をありがたく建設費用に充てさ
せていただくことができました。

有難うございました。

そして十一月四日、あいにくの天候
にはなりましたが、二百名近くの方々
にご参列いただき、山門の落慶法要を
営ませていただきました。この山門が
西臨寺のシンボルとして、末永く地域
の皆様から愛され続けることを願いま
す。

個人情報厳守って何？

東京石見高山会 松野 広

昔むかし ある所におじいさんとお
ばあさんがいました。おじいさんは山
へ柴刈りに・・・これでは住所、氏
名、年齢がさっぱり分かりません。何
だ個人情報秘密って、大昔からあった
んですね。

私は、ふる里大代を出てから五回住
所を変わっています。しかし何処に住
んでも大代町を忘れたことはありません。
今年八月十二日から十七日まで三



年振りにまたまた久具の松島さんご夫妻のご好意に甘え帰省して来ました。ご主人、賢藏さんの車で大田市中あちこち回って貰いました。出会った方々のお名前を聞いただけで昔の面影が今にありありとして込みあげてくるものがありました。

さて、日頃のボケ防止に通っている地区公民館俳句サークルでの拙作を御笑覧ください。

- 袖まくり手裏剣のごと歌留多とぶ
 - 電線の雀の音符春を待つ
 - 三寒や川面を削る風の音
 - 短か夜や新聞の音雨の音
 - ここだけの話に寄せるところ天
 - 油照りトンネル列車を絞り出す
 - 無住寺の堂守りのごと葵立つ
 - 虫の音の透きとほりたる通夜の席
 - 待針を抜くごと夕餉の鮭を食む
 - 夕日浴び鳥沈みゆく草紅葉
 - 満月を待てぬ明日の酒を酌む
 - 靴数へ年明けにする診察券
- 貴大代町には伝統ある、あすなる句会があります。先般五十周年記念誌を編纂発行されましたこと誠にめでたうございました。

私は身長一六八cm、体重七三kg、体脂肪が気になります。いつ「体死亡」になるか分かりません。俳句散歩を心掛け、少しでもあすなる句会の皆様に近付こうと思っております。大代町の皆様お元気で。失礼いたします。

昭和49年

山陰中央新報から

今年の敬老会で5年ぶりに田植ばやしが披露され、皆さまによるこんでいいただきました。



伝統あるこの芸能の記事が、昭和49年に山陰中央新報に「島根に生きる郷土再発見」という特集シリーズで掲載されました。当時の記事を改めて読むと、時の流れを感じずにはおられません。一読ください。(以下掲載記事全文)

中学生の肩に伝統

「60人のジャンボ芸能」

昭和42年7月、大田市立大代中学校の全校生で、小笠原流田植えばやし愛護少年団が結成された。郷土行事を中学生の手で保存しようという珍しい試

みだった。そして中学生たちの力強い舞や美しい早乙女姿は、改めて県民に小笠原流田植えばやしのよさを教え、一躍クローズアップされた。

偶然のタイミングで同じ年の10月8日、山陰路を訪れられた皇太子ご夫妻に、郷土の姿をお目にかけるため選ばれ、出雲市体育館で精一杯の上演をした。山村の子等の初々しい熱演ぶりをご夫妻の心をとらえ、体育館の玄関前に並んでお送りする少年たちに美智子さまは立ち止まり「大変よく出来ましたよ」と、ほほ笑んでねぎらいの会釈をされた。

大代田植えばやしのふるさと、大田市大代町は国鉄山陰線大田市駅を起点に、曲がりくねった山道を25キロ余り入った市内では最も山奥の町。田植えばやし上演の歴史は古く、主なものをあげてみると、明治40年5月29日、大正天皇が皇太子のとき、山陰路を旅行され、当時の大家村尋常小学校校庭でお目にかけた。また、昭和36年10月27日には第16回全国民俗芸能大会に選ばれ、明治神宮で奉納している。

田植えばやしはナギナタ使い、ツエ

使い、采（さい）振り、大太鼓、小太鼓、笛、早乙女など60人前後で構成するリジャンボ芸能リ。大代町も人口流出が激しく、田植えばやしのメンバーをつくるのが困難になった。大正9年に2,200人余りだった人口が現在は1,200人余りに減少していることでもわかる。

このため、当時の中村正臣校長らにより、中学生の手で保存をはかることが考えられた。大代町では7月18日が八幡宮の十七夜祭だが、中学校ではこの日に奉納するのを目標に7月になると練習にかかる。田植えばやし愛護少年団が誕生したころは、町の保存会から40人余りが学校に来て熱心な指導にあたっ

S44.7 国立公園大会リハーサル（三瓶北の原）



た。この人達たちも今は大半が都会へ出稼ぎに行ってしまった。

現在は原田庫市さん（75）ハツコさん（69）夫妻や向井重男さん（51）ら数人のほか、卒業した先輩が学校にかけて指導の補助役に当たっている。全校生は68人。ツエ使い、ナギナタ使い、小太鼓などに男子の数が足りないので女子が回っている。

山村の子ども等といっても現代っ子たちだ。単調な動作の繰返しがりやきれなくなることもあるし、練習の始まる7月といえ暑さきさかり。古代衣装をつけ、太鼓を身体にくくりつけたり、花笠をかぶり、必死に舞うのは大きな負担。

しかし、采振りの3年生・泉朋記君（14）や早乙女役の武田敏子さん（14）は「伝統を守っているという誇りがある。もっと練習したい気持ちだ。町の公開公演では皆さんが声援してくださいるのでやりがいがある」と中学生らしい信念を持っているのが頼もしい。

原田庫市さんらは踊りの仕草の指導だけでなく、笠のかぶり方やアゴひもの結び方、タスキのかけ方などに気を

配る。いいかげんな結び方をしていると、公演の最中に結びがとけて恥をかく。

田植えばやしには①田神（さんばい）おろし②（田神を迎える）③植調子（田植えきた苗を实地に取る）④植調子（田植えのうた）⑤田神返し（田の神を送る）⑥洗い川（田植えが終り、手足や農具を洗う）——の曲目に分かれている。植調子では、終わりがごろには激しいテンポになるため中学生には難しい。原田さんは「昔と違って、踊りが変わってきています。それぞれの我流になってきて、本来のものと違った形になっているようです。仕方がありませんね」といっている。

中学生たちの田植えばやしは、国立公園大会が行われた44年8月に三瓶山・北の原で常陸宮ご夫妻、また、46年4月の全国植樹祭では大田市民会館で天皇、皇后両陛下に見えていただくなど、やりがいのある足跡を残した。

最近では国立音楽大の内田り子教授が、小笠原流田植えばやしは、安芸系と備後系の調子がまじりあった音楽的に特異なタイプとして研究に訪れている。

メモ

宝亀11年(780)大和から尾張系の人たちが開拓民として移住、このとき大和の宇陀郡榛原村から山辺八代姫神社を奉遷し、神楽の一つとしてミコたちが豊作を祈る田植え舞をしたのが始まり。やがてこれに「はやし」が加わった。現在の形ができたのは、天正11年(1584)邑智郡川本町三原に小笠原長旌(ながはた)が丸山城を築いたとき、完成の祝いに一族の小笠原親枝(ちかしげ)近重ともいう)が、小笠原田植えばやしを編み出して舞わせてできた。

大代町には新屋、飯谷、山田を中心にした「飯谷調子」。大家地区には椿、柿田、川上を中心にした田植えばやしがあり、昭和36年10月の全国民俗芸能大会出演を機会に一本化した。

俳句

あすなる句会

椿 花田時子

小春日の 続きてをりし 昨日今日
風の音 水の音さえ 冬めきぬ



下市 今田文字

小春日や 久方ぶりの 畑仕事

杉の葉を 散らして台風 二度三度

川上 岩田律枝

山鳩や 初冬の里の 昼下がりに

茶の花や 葉陰にひそと 二三輪

上市 横田美恵子

雨風に 舞い散る落葉 きりもなく

小春日や 集う人々 賑やかに

秋日和 一句欲しさに 野道行く

高山の 風吹きおろし 冬初め

椿 柿丸寿枝

小春日や 今といふ刻 とどめたし

古里は 誰もが老いて お茶の花

12月行事予定



*** **

▼ 8日(金) クリスマス会

▼ 17日(日) 福祉弁当

▼ 20日(水) さくらんぼ教室

▼ 20日(水) 社協会議

▼ 23日(土) 連合自治会

▼ 28日(木) 仕事納め

▼ 28日(木) 年末警戒

編集後記

晩秋の大江高山に現れる・・・落ち葉の季節となりました。大江高山は、3紀～4紀の火山群(約200万年)の活動により溶岩が隆起した山で堆積物の上に植物が生え現在の姿となった、数々の伝説・遺跡を秘めた山です。

大田方面から帰ってくると久具林道入口を曲がり飯谷自治会館辺りから見ると山辺八代姫命神社の谷、右上部を見ると中腹に白っぽいものが見えます。この時期になると姿を表す黒尊岩(くろすみのいわ)と思っていました。少しづつ大きくなっていくように感じると、デジカメの望遠を使って撮影すると、岩でなく崩壊跡でした。

2000年の歴史の中で何度もこうした崩壊を繰り返したと思われませんが、気になる現象です。この崩壊跡は晩秋から冬期にかけて見ることが出来ます。わき見運転をせず、自治会館付近に駐車して観察してください。(S)

